

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。
研究分野は都市社会学、生活構造論。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの共同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマであり、現在、地域社会の構成や人々の生活様式等が大きく変化する中で、改めて共同性や公共性が問われている。これに関わる具体的な研究テーマとして、公共社会学科・文屋俊子教授とともに、地域における公共交通を取り上げて調査研究を行っている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための公共交通整備の課題を明らかにしたいと考えている。

もうひとつの現在の研究テーマは都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討することである。最近注目を集めているワーキングプアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

田代英美「地方圏における生活交通の社会学的検討」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第20巻第2号、2012

田代英美・佐藤繁美編「公共社会学科開設記念シンポジウム報告書『公共社会学の構想』」、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2011

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、2010

田代英美「ナショナル・トラストと公共性」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号、2009

②その他最近の業績

<書評>

田代英美「書評 金子勇『コミュニティの創造的探求 公共社会学の視点』（2011年、新曜社、214頁）」、『社会分析』39号、2012

<現場レポート>

田代英美「社会学科から公共社会学科へー福岡県立大学における新たな社会学教育の模索」、『日本社会学会年報』第9号、2011

<学会発表>

田代英美「筑豊地域における交通行動の実態と住民意識」、西日本社会学会第69回大会（島根大学）、2011年5月21日

<シンポジウム>

公共社会学科開設記念シンポジウム「公共社会学の構想」におけるコーディネーターおよび研究報告

田代英美「“公共性”思考の連続と不連続」、西日本社会学会第68回大会（福岡県立大学）、2010年5月23日

<調査研究報告書>

田代英美・植田美佐恵『高齢者ふくし生協10年の現状と課題』、福岡県高齢者福祉生活協同組合、2010

田代英美『次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画（後期）策定に係るニーズ把握調査報告書』、福岡県福津市健康福祉部こども課、2010

③過去の主要業績

福岡県立大学・筑豊地域の交通体系研究会『筑豊地域の交通体系検討事業報告書』、福岡県立大学、2006

田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）研究成果報告書、2005

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会各会員

6. 担当授業科目

<学部>

公共性研究A（公共性の社会学）・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、社会学概論・2単位・2年・前期、地域社会研究Ⅰ・1単位・2年、地域社会研究Ⅱ・1単位・2年、社会調査実習・2単位・3年・通年、地域社会分析法A（地域と生活）・2単位・3年・前期、地域社会学特講・2単位・3年、環境社会学・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

直方市都市計画審議会委員

川崎町地域公共交通活性化協議会委員

田川市地域公共交通会議委員

稼働能力判定会議委員（福岡県嘉穂鞍手福祉事務所）

添田町「英峰塾」顧問

添田町教育委員会の事務に関する点検評価 外部評価委員

添田町「歓遊舎ひこさん」経営委員会委員

8. 学外講義・講演

平成23年度福岡県立大学公開講座「子どもの教育を地域で支える」、2011年9月27日

9. 附属研究所の活動等